

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 27 年 6 月 25 日 (2015.6.25)

【公開番号】特開 2013-215551 (P2013-215551A)
 【公開日】平成 25 年 10 月 24 日 (2013.10.24)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-058
 【出願番号】特願 2013-21428 (P2013-21428)
 【国際特許分類】

A 6 1 J 3/00 (2006.01)

G 0 1 T 1/161 (2006.01)

【F I】

A 6 1 J 3/00 3 1 1 Z

G 0 1 T 1/161 D

【手続補正書】
 【提出日】平成 27 年 5 月 8 日 (2015.5.8)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

配管を取付可能な複数の保持手段を備える基板と、
 前記複数の保持手段のうち一部によって前記基板に取り付けられた配管と、
 を備え、
 前記基板には、前記配管を開閉するための複数の貫通孔が設けられ、
 前記複数の保持手段は、
 第 1 方向に沿って前記配管を取付可能な複数の第 1 保持手段と、
 前記第 1 方向と交差する第 2 方向に沿って前記配管を取付可能な複数の第 2 保持手段と
 、
 を含む放射性同位元素取り扱い装置用カセット。

【請求項 2】

前記複数の第 1 保持手段の各々は、前記第 1 方向に沿った複数の第 1 ラインのいずれかの上に設けられ、
 前記複数の第 2 保持手段の各々は、前記第 2 方向に沿った複数の第 2 ラインのいずれかの上に設けられ、
 前記複数の貫通孔の各々は、前記複数の第 1 ラインのいずれかと前記複数の第 2 ラインのいずれかとの交点に位置合わせして設けられる請求項 1 に記載の放射性同位元素取り扱い装置用カセット。

【請求項 3】

前記貫通孔の各々には、少なくとも 3 つの前記保持手段が対応して設けられる請求項 1 又は 2 に記載の放射性同位元素取り扱い装置用カセット。

【請求項 4】

前記貫通孔は、前記第 2 方向に沿って延伸する長孔によって構成され、
 前記長孔は、前記第 1 方向に沿って所定の間隔で複数設けられる請求項 2 に記載の放射性同位元素取り扱い装置用カセット。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の放射性同位元素取り扱い装置用カセットを着脱自

在に固定可能な固定部と、

前記複数の貫通孔の各々に対向する位置に設けられ、前記配管を押圧可能な複数の押圧部材と、を備える放射性同位元素取り扱い装置。

【請求項 6】

前記固定部は、前記放射性同位元素取り扱い装置用力セットの前記基板を受ける前面と、前記基板の縁部を支持する爪部と、前記前面から突出する複数の突出部と、を有する請求項 5 に記載の放射性同位元素取り扱い装置。

【請求項 7】

前記固定部が取り付けられる本体部と、

前記本体部に開閉可能に取り付けられた扉部と、

を更に備え、

前記複数の押圧部材は、前記扉部に設けられており、前記扉部が閉められた状態で、前記配管を押圧可能となる請求項 5 又は 6 に記載の放射性同位元素取り扱い装置。

【請求項 8】

前記複数の突出部は、前記放射性同位元素取り扱い装置用力セットに設けられた前記貫通孔に対応する位置にあり、

前記押圧部材は、前記複数の突出部と対応する位置に設けられている請求項 6 に記載の放射性同位元素取り扱い装置。

【請求項 9】

請求項 1～4 のいずれか一項に記載の放射性同位元素取り扱い装置用力セットを着脱自在に固定可能な固定部と、

前記複数の貫通孔の各々に対向する位置に設けられ、前記配管を押圧可能な複数の押圧部材と、

放射性同位元素を溶解させた溶液の調整を行う溶液調整ユニットと、

前記溶液調整ユニットで調整された溶液に含まれる前記放射性同位元素を精製する精製部と、を備え、

前記精製部は、

前記溶液から前記放射性同位元素を抽出する抽出部と、

前記抽出部よりも下流側に設けられる、交換可能な三方活栓と、

前記三方活栓とは別体として設けられ、前記三方活栓の切り替えのための駆動力を付与する駆動部と、を有する放射性同位元素取り扱いシステム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

放射性同位元素取り扱い装置において、複数の突出部は、放射性同位元素取り扱い装置用力セットに設けられた貫通孔に対応する位置にあり、押圧部材は、突出部と対応する位置に設けられていてよい。このような構成により、押圧部材は、複数の突出部との間でカセットの配管を挟み込むことができる。これによって、押圧部材は配管を確実に塞ぐことができ、流路の設定をより確実に行うことができる。